

国語科学習指導案（支援案）

日 時：2005年9月6日（火）第2教時

児 童：御成小学校1・2年4名

1年 男子1名 女子1名

2年 男子1名 女子1名

1. 題材名 1年「けんかした山」
2年「きつねのおきゃくさま」

2. 題材について

<1年>

二つの高い山は、背比べをしては、自分の方が高いと、いつもけんかばかりしている。昼も夜もけんかの絶えない二つの山であるが、けんかをしている会話文は直接はでてこない。また、二つの山が一気に火を噴き出すところや、火が消えてしょんぼりしているところも会話文はない。二つの山の気持ちを想像して、会話文や心の言葉を言わせたり書かせたりしたい。お日さま、お月さまの言葉づかいにも注目させ、言葉の調子から人物像をイメージさせるとともに、音読などにも生かすようにして行きたい。

<2年>

「きつねのおきゃくさま」にはきつねとひよこたちの交流が描かれている。きつねは初めは食べるつもりでひよこを家に連れてきたが、ひよこやあひるやうさぎに強く信頼されることになってしまい、襲ってきたおおかみと戦って、とうとう死んでしまう。きつねの小さい動物たちの信頼に応えるため、命をささげる行動を読みとり、子どもたちは強い興味・関心をもつに違いない。

3. 題材の目標

<1年>

○場面の様子を想像しながら読み、お話を読む楽しさを味わう。

<2年>

○場面や人物の様子を考えながら読み、作品のおもしろさや楽しさを味わう。

4. 児童の実態

<1年>

男子1名、女子1名の学年である。初めての物語教材「おおきなかぶ」では、登場人物になりきって文章を読むことが難しかった。また、始めのうちは登場人物の言葉を考えることにも多少の抵抗はあったが、少しずつ慣れてきた。2学期に入ってから「音読」を重視してきたが、物語で登場人物の言葉を読む時にどのくらい気持ちをこめて読むことができるか、というところに授業の楽しさを感じてほしい。

<2年>

男子1名、女子1名。「きつねのおきゃくさま」は、昨年の2年生の授業の様子をみて、2人ともとても楽しみにしている。登場人物の気持ちを読みとる学習は「ひっこしてきたみさ」でもやっているが、読みが浅かったため、登場人物になりきれず、気持ちを読み取るのが難しかった。1年生と同様、2学期から毎日の「音読」を重視したため、前回の物語文「ひっこしてきたみさ」を学習したときよりは内容も理解し、読みに深まりがあると考えられる。

5. 指導計画

<1年>「けんかした山」全10時間（第一次）

時	学習活動の重点	評価規準
1	○全文を通読し、印象に残ったところを発表する。	【関】お話に興味を持ち、進んで読んだり意見を言おうとしている。
2	・ ○友達とけんかした経験について話し合う。 ○漢字の読み方を理解する。	【関】漢字に対して興味を持っている。 【話・聞】全文を通読して、感じたことや興味を持ったことをはなしている
3	○挿絵と文章を対照しながら読み、登場人物やあらすじをつかむ。	【関】挿絵を見ながら、場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】登場人物を落とさずおさえている。 【読】挿絵や言葉を手がかりに、登場人物やお話の大体を読み取っている。
4	○けんかばかりしている二つの山の様子を読み取る。	【関】挿絵をみながら、場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】けんかをしている二つの山や周りの登場人物の様子を読み取っている。
5	○お月様の言葉から、夜の山や森の様子を読み取る。	【関】挿絵を見ながら、場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】お月様の言葉や周りの登場人物の様子を読み取っている。 【書】登場人物の言葉を想像して書いている。
6	○山の様子、火に包まれた森、小鳥たちや動物たちの様子を読み取る。	【関】挿絵を見ながら、場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】小鳥たちや周りの登場人物の様子を読み取っている。 【書】登場人物の言葉を想像して書いている。
7	○お日様の気持ちや雲の様子、雨の降る様子、火の消えた山の様子を読み取る。	【関】挿絵を見ながら、場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】お日様やしよんぼりした山の様子を読み取っている。 【書】登場人物の言葉を想像して書いている。
8	時の流れとともに緑の山に変わっていった二つの山の様子を読み取る。	【関】挿絵を見ながら、場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】長い年月をかけて回復した山の様子を読み取っている。 【書】登場人物の言葉を想像して書いている。
9	○場面の様子を想像しながら、全文を通読する。	【関】挿絵をみながら、場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。
10	○全文を視写し、好きな場面について話し合う。	【読】登場人物がしたことや言ったことを思い浮かべながら読んでいる。 【書】好きな場面を、ほぼ正しく視写している。 【言】「～は」「～が」や、「」の使い方に注意しながら視写している。 【話・聞】好きな場面を明確にして話している。

< 2年 > 「きつねのおきやくさま」 全 1 1 時間 (第一次)

時	学習活動の重点	評価規準
1 ・ 2	○「学しゅうのとびら」をもとに単元全体の内容を確認、学習の見通しを持つ。 ○「きつねのおきやくさま」を読み、初発の感想を書く。	【関】 単元全体の見通しを持ったり、物語の題名に興味を持って、進んで学習に参加しようとしている。 【書】 初発の感想を自分の言葉で書いている。 【言】 新出漢字を正確にノートなどに書き出している。
3	○改行ごとのまとまりにわけさせ、きつねの行動に視点をあてて、あらすじをとらえさせる。	【読】 自力で全文を読んでいる。 【読】 七つの場面に分けている。 【読】 話の順序をおさえている。 【書】 簡単なあらすじをノートにまとめている。
4	○第一の場面を読んで太らせてから食べようと考えたひよこに「やさしいお兄ちゃん」と言われて、ぼうっとなるきつねの様子や気持ちを想像する。	【関】 本文を進んで音読しようとしている。 【関】 きつねとおきやくさまの関係を考えながら読もうとしている。 【言】 文章の主語と述語の大体をとらえて読んでいる。 【読】 きつねやひよこの様子や気持ちがわかる言葉を本文から見つけている。
5	○第二の場面を読んでひよこことあひるの「親切なお兄ちゃん」の話聞いてぼうっとなった狐の様子や気持ちを想像する。	
6	○第三の場面を読んで、ひよこことあひるとうさぎの「神様みたいなお兄ちゃん」の話聞いて、ぼうっとなったきつねの様子や気持ちを想像する。	
7 ・ 8	○第四～六の場面を読んで、おおかみと戦ってはずかしそうに死んだきつねの様子や気持ちを読み取る。	【関】 本文を進んで音読しようとしている。 【読】 おおかみやきつねの様子がわかる言葉を本文から見つけている。 【書】 ひよこたちの気持ちを、吹き出しに書いている。
9 ・ 10	○全文を振り返らせ、きつねの気持ちの移り変わりをまとめさせる。 ○強く心に残ったところや思ったことを絵や文章に書かせ、初発の感想と比べながら話あわせる。	【書】 きつねの気持ちの変化をまとめている。 【書】 きつねのしたこと、相手が返してくれたことを書いている。 【書】 心に残った場面の文章を抜き出して書いている。 【話・聞】 心に残ったことを最初の感想と関連させて話している。 【話・聞】 お話を読んで考えたことや思ったことを分かりやすく話している。
11	○好きな場面を音読させたり、漢字や言葉のまとめをさせる。	【関】 心に残ったことを、進んで発表しようとしている。 【読】 リズムのおもしろさに気づいている。 【読】 それぞれ工夫して音読している。 【言】 学習した新出漢字や語句をノートなどにまとめている。

6. 本時の目標

< 1年 > (第五時)

【読】 お月さまの言葉から、夜の山や森の様子を読み取る。

< 2年 > (第五時)

【読】 第二の場面を読んで、ひよこことあひるの「親切なお兄ちゃん」の話聞いて、ぼうっとなったきつねの様子や気持ちを想像する。

7. 本校の研究主題とのかかわり

◎筋道を大切に考える子どもの育成～各教科における指導の工夫・改善を通して～

<1年>

・お日さまとお月さまの言葉のちがいを理解し、さし絵の変化に気づき、森の様子を想像することができる。

<2年>

・きつねの心情の変化がわかるキーワードを見つけることができる。

8. 本時の展開

段落	児童の活動 (1年)	教師の活動	わたり	教師の活動	児童の活動 (2年)	段落
課題設定・見直し	○前時の学習内容を確認する。 ・けんかの様子 ・動物たちの様子 ○教科書を音読する (第1・2の場面)			登場人物の気持ちを考えながら読ませる。	○教科書を音読する (第1・2の場面) ○前時の学習内容を確認する。 ・「やさしいお兄ちゃん」といわれたきつねの心の中をさぐる	課題設定・見直し
課題解決	○本時の課題を確認する 「お月さまのかおをえらぼう。お月さまになって、ことばをよもう」 ・どうしてそのお面を選んだのですか ・お月さまの表情 ・読み方 ○「お月さまにいわれたあとの山は、なんていったかな？」 ○「もりのどうぶつはなんていったかな？」 ○二つの山や動物たちの気持ちを発表させる。	登場人物の気持ちを考えながら読ませる。 課題提示 ノートに記入させる お月さまの顔をかいた面を選んでかぶる ・どうしてそのお面を選んだのか理由を発表させる ノートに記入させる (好きな登場人物を選ばせる)		課題提示 「ーはあん。にげる気かな。」につづく言葉をノート、ホワイトボードに記入させる。	○本時の課題を確認する 「きつねお兄ちゃんはとっても親切なの」と言われてうっとりしたきつねの気持ちをかんがえよう。 ・ひよこがさん歩に行きたいと言ったときの気持ち ・「親切な」と言われたときの気持ち ○きつねの気持ちを発表する ・ホワイトボードを黒板にはる。 ・きつねになったつもりで自分の書いたものを読む。	課題解決
まとめ	○本時のまとめとし、第2の場面を気持ちをこめて読む				○本時のまとめとし、第2の場面を登場人物の気持ちを考えながら読む。	まとめ

9. 本時の評価（評価基準）

< 1年 > 【読】

B：お月様の言葉や周りの登場人物の様子を読み取っている。

A：お月様の言葉や周りの登場人物の様子を読み取り、お日さまとの性格のちがいを発表することができる。

< 2年 > 【読】

B：きつねやひよこの様子や気持ちがわかる言葉を本文から見つけている。

A：きつねやひよこの様子や気持ちがわかる言葉を本文から見つけ、気持ちをこめて読むことができる。

10. 評価の方法

< 1年 >

- ・ふき出しに書かせる

< 2年 >

- ・キーワードを気持ちをこめて読ませる（動作化させる）